

心に残る文化財子ども塾 松江市立恵曇小学校

1. 活動の概要

例年より早く梅雨明けを迎えた7月7日（木）、松江市立恵曇小学校の6年生11人と、「学校周辺の遺跡と奈良の大仏」の学習活動を同小体育館で行いました。

はじめにまず、大仏がつくられた奈良時代の恵曇小学校一帯について、古代文化センター職員がお話ししました。子どもたちに奈良時代の須恵器を見てもらうとともに、そのころの土器が出土した学校近くの遺跡、古浦砂丘遺跡を職員が紹介しました。また、全国で唯一完全な形で残る奈良時代の地誌『出雲国風土記』の恵曇郷部分も読み、貴重な文献から砂丘と人々の暮らしを説明しました。校区内の遺跡地図を見て、古墳（狐堀古墳）がある一帯へ出かけたことを思い出す子どもたちもいました。身近な文化財をあらためて確認する機会となったようです。

大仏パネルの体験ではまず、奈良の大仏を実際に見たことがない子どもたちに、職員が大仏に込められた意味やその姿を簡単に説明しました。子どもたちは、体育館の床全体に散らばったパネルを組み合わせ、大仏をつくっていきました。抜群のチームワークを発揮して、奈良の大仏を完成させると、子どもたちは2階からながめたり、パネルの上で並んで写真撮影してもらいながら、大仏の大きさを実感していました。

2. 活動の様子



「恵曇小の近くの遺跡です」



パネルを並べて大仏をつくろう！



「大仏の顔はこうかなあ？」



みんなで縦に寝転がって記念撮影

3. 活動を終えて

1) 児童の皆さんから

<一番心に残ったこと>

- パズルを上から見てできていたことと、大仏が大きかったことです。
- パズルをくみ立てる事が楽しかった。
- 大仏が大きかったこと。
- クラスみんなで大仏パズルを協力してつくり、とても楽しかったです。
- 大仏はでかいし生徒 11 人分ぐらいだったことや、恵曇の所にも古ふんがあることを知ることができました。
- 恵曇にもいせきがみつかったこと。

<もっと知りたいこと>

- 大仏の大きさでどのやつもいっしょか。
- (大仏は) なぜかみをきらなかったのか。
- 立っている、本物の奈良の大仏を見たい。
- 他の国に大仏はどれぐらいあるのかということです。
- 他にも恵曇で発見された昔の物があるのかを知ってみたいです。
- もっと飛鳥・奈良時代の出土品をもっと見てみたいです。理由は、弥生・古墳時代からの生活の変化を知りたいからです。

2) 担任の先生から

<全体を通してよかった点>

- 奈良の大仏の実物大を体感できたこと。
- (子どもたちが) 協力して活動ができたこと。
- 恵曇の歴史について講話していただいたこと。

3) 古代文化センターから

奈良時代、恵曇小学校のあたりは恵曇郷（えとものさと）と呼ばれていました。『出雲国風土記』から桑や麻が栽培されていたこともわかる、興味深い地域です。近くの松江市立鹿島歴史民俗資料館は、恵曇で発見された土器など昔の物が展示され、見どころ十分でオススメです。ぜひ訪れてみてくださいね。

実は、大仏パネルにはよく似たパネルがたくさんありますので、見ただけでは完成させるのが難しいところもあります。そんな私たちの心配もよそに、クラスの皆さんは協力して、キチンと完成させていましたね。今回の体験が、奈良時代の学習に効果的に結びつくと、私たちもうれしいです。